

受け継ぐ開拓の息吹

# 神楽と太鼓に魅せられて

## 郷土芸能は、心のふるさと

十一月三日は文化の日です。留萌にも郷土芸能に神楽と太鼓があります。

ニシン漁で湧いた開拓の時代から受け継がれてきた地域色豊かな神楽と日本人の音の故郷である太鼓を守っている団体があります。

今月号では、神楽四団体と太鼓二団体の活動を紹介します。

### 道内各地で演奏

#### 留萌黒潮太鼓保存会

黒潮太鼓の発足は、昭和四十一年八月登別市地獄祭り。当市で開催された「全道盆踊り太鼓大会」に参加、特賞から三位まで独占し、さらに特別招待賞を受け、太鼓だけの演奏音楽に自信をつけたことが初まりです。

従来の盆踊りで使っていた太鼓の他に一箇を購入し、不足分は酒屋から空樽を三箇もらい練習を始めました。

太鼓の音が大きく、練習場所も瀬越会館を初めとして現在の文化センターに決まるまで八ヶ所も替りました。

昭和四十六年五月に留萌観光協会から太鼓三箇の寄贈をうけ、また市内の有志の方からの寄付で太鼓を購入

しました。

昭和四十六年九月にNHKのど自慢大会のアトラクショ

ンを皮切りに、昭和四十八年十一月家族揃って歌合戦に出演、大宮市、岡山市、千葉市などで開催された北海道物産展に合せて演奏出演、その他道内各地で数多く演奏の機会にめぐまれていきます。



▶勇壮な太鼓の連打

しかし、多くの障害と悩みもありました。

練習場所の確保はもとより後継者がいないこと、会員もそれぞれ仕事をもっているのが会員一緒に練習ができないことや太鼓の数がまだまだ少ないことなどです。

会員たちは、留萌市の郷土芸能として、太鼓の集団演奏を通じて少しでも文化の向上に役立つと研究を積み重ねていきます。



◀無心に太鼓を打つ少年たち

演奏は三楽章構成になっています。

会員がアイデアを出し、みんなで打ちながらでき上った曲目は、「激流暑寒太鼓・留萌の四季・北海こまき太鼓・ソラン太鼓」の四曲です。

### 子どもたちの手で伝承

#### 藤山少年太鼓

藤山少年太鼓は、昭和五十五年三月藤山小学校開校八十年記念事業の一つとして、何かいつまでも藤山町に残り伝えていけるものはと、生まれました。

普通、太鼓の演奏は五分程度とされていますが、藤山少年太鼓は三十分と長く楽譜もあります。

二曲目の田園太鼓は、のどかな田園風景をあらわしています。

三曲目の藤山の子守唄は、わらべ唄風のメロディー。黄色に輝く稲作畑を歩く子守りの風景が表現され全体的に優しさにつまっています。

練習は週二回で一年生から六年生まで二十五人の子ど

太鼓は、六年生四人、五年

生四人で打っています。ほかの子どもたちは、「シンバル」「鉄琴」「かね」などの楽器を担当しています。

六年生は、下級生に自分の覚えたことを、手取り足取り教えています。始めてバチを持つ下級生は、練習に熱が入っていると、手の皮がむけているのも気付かずバチを打ち続けています。

郷土伝承芸能にしようと、練習に励んでいます。

### 舞は十六種類

#### タルマップ獅子舞保存会

明治三十七年頃、富山出身者が入植。当時二十戸くらいの住民が、故郷の祭りを想い獅子舞を導入しました。以来一度も休まず現在まで続けていることが自満になっています。

舞は十六種類あり、舞と囃子を十二・三名で行ない、村祭りや、農家の収穫後に舞を披露しています。

今はビデオがあります。昔は、「見よう見まねで舞を覚えたいものです」と岩腰敬之会長が話してくれました。村祭りには、留萌市街に転出した人たちが、獅子舞を見



◀竹つぎの舞を披露

に来てくれるので、踊り手たちもハッスルします。今後は、笛の吹き手の養成など、後継者の育成につとめていきます。

### 舞の保存にビデオを

#### 幌糠町郷土獅子舞保存会

幌糠町に伝統芸能として継承されている獅子舞は、明治三十三年頃の開拓当時の青年有志が故郷の越中五ヶ山地方（富山県）に伝わる大獅子を導入したものです。

この獅子舞は、舞方十名、囃子方五名で踊り、舞の種類は五種類あり、それぞれ見る人に勇壮華麗さを感じさせてくれます。現在会員は三十六名、幌糠



◀庄感大獅子の踊り

祭りの十日前から公民館などを借りて練習しています。この由緒ある獅子舞を郷土芸能として、開拓精神とともに引き継ぎ後世まで保存しようとして、昭和四十九年九月幌糠町郷土獅子舞保存会を結成。以来、舞をビデオに取りながら獅子舞の保存につとめています。

### 下北半島が発祥の地

#### 留萌岩戸神楽保存会

大正十年代に青森県下北半島から鯨漁場へ出稼に来ていた人たちの中から、留萌の神楽が生まれ受け継がれていきます。

昭和四十年留萌岩戸神楽保存会と名称をかえ、大工、左



練習は天候次第

#### 礼受南部神楽保存会

礼受南部神楽は今から百年近く前からあったと言われて

いますが、組織されたのは大正十年頃です。

舞は今でも身ぶり、手ぶりで伝えていきます。会員は十五名程度で漁業者出稼者が大半です。練習は漁業者が多いので、天候に左右され思うように出来ないのが悩みです。

舞を覚えるのに、四、五年かかります。囃子は三年くらいかかります。今から後継者を育てて行かなければならず、会

では、礼受地区出身の若い人たちに働きかけています。舞は全体で十四、五分の踊りで、珍らしいのは、現在も神楽詞が残っていることです。毎年七月二日の礼受祭りに獅子舞を披露しています。



▶この日は漁を休み